アドイシグロ

「長野ものづくりビル」オープン記念イベント開催

◀建物前につくったプロジェクトの大きな看板

築35年のマンションを起点にリノベーション文化を発信

看板事業を展開するアドイシグロ（長野県長野市）はビンテージ賃貸の管理・運営を展開するスペースRデザイン（福岡県福岡市）と3月29日に、「『長野ものづくりビル』スタートアップ記念スペシャルトークイベント」を共同で開催した。約100人が参加した。

同イベントは、アドイシグロが所有する築35年のマンション「光ハイツ」から長野に新しい住まいの文化が生まれることを広く発信することが目的。当日のメーンイベントはスペシャルトーク。主催者の一人、福岡で〝ビンテージ賃貸〟を展開するスペースRデザインの吉原勝己社長と東京からいまやカスタマイズ賃貸の第一人者として注目を集めるオーナー、メゾン青樹の青木純氏によるセミナー。この2人に加えて、地元長野を拠点に空き家仲介とリノベーションを展開し全国から注目を集めるマイルーム倉石智典社長、「長野門前暮らしのすすめ」などで善光寺界隈のつながりを育みつづけているナノグラフィカ主宰の増澤珠美氏、本紙編集長永井ゆかりの5人によるトークライブを実施した。

▶サーカスをイメージしてつくった立体看板

セミナーでは、吉原社長が「ビンテージ賃貸（ビル）がまちを変え、新しい住まいと仕事を生み出す時代～新たな建物文化で、暮らしと仕事を豊かに～」を演題に、古いマンションやビルを親から引き継いだ当初の苦い経験から古い建物を壊すのではなく、時間が経てば経つほどに愛情が深まり、まちに愛される「ビンテージビル」へ育ててきたこれまでの歩みを講演。青木氏は「エリアを凌駕して人を集めるリノベーション」を演題に自身がこれまで展開してきたカスタマイズ賃貸のきっかけや、壁紙を入居者が選ぶという行為をきっかけに想像以上の感動を与えることができたことを発表。さらに、同じ〝感動〟を体験した人が集まるとコミュニティーが生まれ、そのコミュニティーもまちに開くと生活がもっと豊かになる話なども披露した。

▶盛り上がったトークイベント

会場となった「光ハイツ」内ではリノベーションした住戸の見学会も実施。その他、塗装や溶接などが体験できるワークショップを行った。参加者はリノベーション文化に触れることができた一日だった。

雑記帳

物件が街に対して開いていく。それがこれからの賃貸住宅のあり方なのだろうと感じたのが、東京都住宅供給公社（東京都渋谷区）が建て替えプロジェクトを進めてきた「コーシャハイム千歳烏山」。近隣住民も利用できるコミュニティースペースを設置。民が公以上に街を育て、人を育む時代がそこまで来ている。（佐藤）

「新発行する雑誌のタイトル候補が北海道の会社に商標登録されていた」と話す某社の某氏。そのとき同時に、大企業は社名に似た響きの名称は押さえているということを知り、「世間を知った気がする」と呟くのであった。（石井）

4月1日、新年度の始まり。フォーシーズ（東京都港区）でも新入社員22名を迎えた。全国の営業所に配属される。丸山輝社長みずから全国の入社説明会を行脚して採用した精鋭ばかりだ。（小野）

レジナ（千葉県市川市）が手がけるリノベーションは壁面に珪藻土を用いる。珪藻土は施工がしやすいため、入

日本クリードの大関真悟CEOは、今でも毎月一度、被災地へ出掛けては炊き出しボランティアを行っている。行く先々で馴染みの顔になっているというのに、おごった様子など微塵もなく、大関さんは、「最近やっと本音を話してもらえるようになりました。それが嬉しい」。穴があったら入りたい。（吉松）

ポラスグランテック（埼玉県越谷市）が建てた女性をターゲットにしたアパートを見てきた。ミストサウナや食洗機付きのキッチン、女子会を想定したリビングなど、設備も間取りも上質感がある。聞くと、契約者の中に40代の単身男性がいるという。やはり。取材中、自分ならその部屋をどう使うか、私もそればかりを考えていた。（東島）

24時間365日営業している仲介会社フォーカス（大阪府大阪市）のいい

オーナーとリフォーム会社を仲介するポータルサイトを運営するイエスリフォーム（東京都中央区）。ユーザーから問い合わせがあればヒアリングに直行し、厳正な審査で登録している優良リフォーム会社を紹介。利便性の高いサイトだが、齋藤直樹社長の「足を使う行動力」がサイトの信頼性向上に一役買っているのは確かだ。（高山）

アンティーク建材を使ったリノベーションを提案する410 LLC（福岡県福岡市）。安村嘉能社長は「アンティーク建材は専門学生やアパレル系店員などに人気が高く、自然と同じ趣味の住人が集まります」という。それならそのうち野球好きが集まる物件や読書家が集まる物件、スイーツ好きが集まるなど夢が広がる。（藤田）

「効率化を進めた結果、クレームが増えていったのだと思う」。3月29日の

とが両者間に信頼関係を築けることを実感したのだという。（永井）

デザインオフィス・ミュー（大阪府大阪市）は4月1日、大阪市内に北欧輸入家具のセレクトショップ「ミュー・セレクション」をオープンした。およそ30坪の店内に北欧各国から取り寄せた家具約50種類が陳列されている。コーディネートのイメージがしやすいように相性の良い家具を組み合わせて食卓を再現するなどの工夫を凝らしている。営業時間はam10：00～pm8：00。（山本）

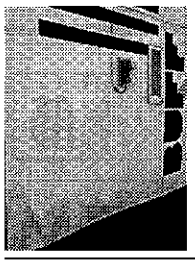
「2014年は太陽光発電の売電だけで住宅ローンが返済できる仕組みを考え、投資家向けに太陽光発電付き戸建賃貸を提案していきます」と語るのはフィット（徳島県徳島市）の鈴江社長。戸建賃貸住宅、駐車場の屋根に太陽光パネルを設置し、月約7万円ほどの売電が可能になるという。住宅ローン0円物件となり、家賃収入はそのまま、投資家の収益につながるというわけだ。夢のような投資商品だ。（山口）

家主業を行う夫婦何組かに会った。

ブルースタジオ

木造下宿を2戸のメゾネットにリノベーション

1階を土間床にしたクリエイティブワーカー向け賃貸



ブルースタジオ（東京都中野区）は、東京都世田谷区上北沢にある築40年の木造下宿屋を2戸の長屋として再生した。

オープンルームの来場者の2組がすぐに申し込み、即満室となった成功事例だ。

同リノベーションのコンセプトは「ワークとライフの共存」。もともと1階オーナー宅、2階の4室を下宿として賃貸していた建物を43㎡と40㎡のメゾネットタイプに変更。1階は「ライブ空間」屋組み」の下、温もりと安心感を持つくつろげる空間にした。

このコントラストのある2層の空間構成によって、仕事とプライベート、つまり「オン」と「オフ」を切り替えながら生活していくクリエイティブワーカーの暮らしの器とした。

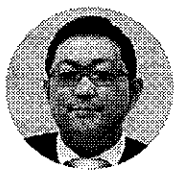
を張ってみたいと話していたというカップル。

同建物の特徴のもう1つがグラフィックペイントによるアートウォール。外壁には建物名の「BUFF」の文字を中心にしたデザインが施され、各住戸には入居者の趣向を反映したデザインを施した。1戸は「アイ

わらやグループ

顧客向けに海辺の別荘事業開始

一軒家を改装し、1日2組まで利用可


わらやグループ（東京都江戸川区）中里博史社長(37)

賃貸経営および賃貸不動産管理を展開するわらやグループ（東京都江戸川区）は、同社で契約した顧客向けに「海辺の別荘」事業を今年3月に本格スタートした。

同社では、沖縄県の美ら海水族館から3キロほどの場所にある海岸近くの戸建てを取得。改装して1階、2階それぞれにベッドルームおよびリビングを設けて、1日2組が宿泊できるようにした。

チェックイン・チェックアウトについては、別荘近くにあるカフェに委託。チェックアウトの際は委託したカフェスタッフが、立ち会いにて備品・室内状況の確認をする。

別荘敷地内には、ピザ窯があり、ピザを焼くことはもちろん、バーベキューをビーチで楽しむこともできる。バーベキューの食材については、チェックイン時に予約すれば委託しているカフェが別荘まで届ける仕組みになっている。

別荘の目の前はエメラルドに輝く海が広がる。別荘には無料で使用できる専用のシーカヤックやパドルボードが用意されている。キックボードやキックボ